

第3回ひらつか男女共同参画推進協議会 会議録

令和8年3月13日（金）9時30分～10時40分
平塚市庁舎本館7階 720会議室（2）

出席委員 7人（長谷川（あ）委員、長谷川（進）委員、中津川委員、大津委員、阿部委員、鈴木委員、
宮本委員）

主催者 4人（武井人権・男女共同参画課長、榮谷人権・男女共同参画課長代理、平出主管、加納主査）

1 開会

2 挨拶

3 議題

（事務局） ここから、協議会規則第4条第3項及び第5条第1項の規定により、議事進行は副会長が行います。よろしくお願いします。

（委員） 第3回ひらつか男女共同参画推進協議会の議題に入ります。

議題1 令和7年度イクボスプロジェクトについて（報告）

（委員） それでは、議題1「令和7年度イクボスプロジェクトについて（報告）」、事務局から報告をお願いします。

（事務局） 資料1及び2をお手元に御用意ください。まず、このイクボスプロジェクトの趣旨について改めて説明します。当該プロジェクトは、ジェンダー平等社会の実現に向けて、誰もが活躍できる働き方を考えるきっかけとなり、事業所での働き方の見直し、管理職及び従業員のワーク・ライフ・バランスの推進に積極的に取り組めるようになることや、「イクボス」として必要な知識を深めることを目的に実施する事業です。事業所にイクボスを増やすことで誰もが働きやすい職場環境づくりが推進されるよう「イクボス」の考え方や、取組を広く周知するため、今年度はオンライン講演会を1回とパネル展を3回開催しました。

まずは、オンライン講演会について報告します。講演会の開催期間は令和8年1月7日（水）9時から2月4日（水）17時までの約1か月間でした。講師の方と協議した結果、あらかじめ収録した動画をYouTube上にアップし、どなたでも視聴いただけるよう申し込み不要の公開配信という形で開催しました。今回のテーマは、第1回協議会において、「ICTを活用したリモートワークなど仕事を効率的に行えるようになれば、人手不足が解消され、育児や介護休業を取得する従業員が増えても対応できるようになり、その結果、離職防止にもつながるということに焦点を当てたテーマ」という御意見をいただき、事務局で検討した結果、誰もが働きやすい職場環境づくりが推進されるよう、「デジタル」を切り口に、事業所の経営者や管理職、従業員などに向けて動画配信による講演会を開催して、ワーク・ライフ・バランスを実現するためのヒントが欲しい企業の皆様に、デジタル技術で実現する方法をお伝えしました。講師はテイクストーンズコンサルティング合同会社業務デザイン・ラボ代表社員 武石 ゆかり氏に務めていただきました。講演の内容は、働く女性の増加や価値観の変化によるワーク・ライフ・バランスと生産性向上の必要性、デジタル化の意義、デジタル化による業務効率化の具体例、イクボスに求められる視点や役割、生成AI活用における

誤情報生成や情報漏洩などのリスク管理について講演いただきました。その他、事前に実施したイクボス宣言登録企業へのアンケートの回答結果について御紹介いただくとともに、講演最後には今回のイクボスプロジェクト開催に御賛同いただいたイクボス宣言登録企業の企業名をスライドで紹介する、といった内容で作成・編集いたしました。

視聴回数は474回で、前回の138回を大きく上回りました。申し込み不要の公開配信としたこと、また市公式LINEを活用した広報活動により視聴回数が増えたのではないかと考えております。アンケートは、15名の方から回答をいただきました。講演の内容について、9割以上が「参考になった」と回答され、どのような点が参考になったかについては、「業務効率化を進める際の注意点、他社業務改善例等は参考になりました。AI利用の際のガイドライン作成等の参考になるサイトなども教えていただいたので情報収集しようと思いました。」、また「今、誰もがパソコンや携帯電話など使える状態になっているのでガイドラインの策定が必要に感じました。」、さらに「『時間は有限』、『人が人しかやれないことに集中できる状態にすること』というお話を聞いて、デジタル化への意識が少し高くなりました。」といった肯定的な感想をいただきました。また、「もっと詳しく聞きたかった」と回答した方は、「生成AIに機密情報を学習させないようにする設定方法」といった具体的な実務に沿った内容を望まれているようでした。2ページに入りまして、デジタル技術を活用した業務の効率化の理解度については、「よく理解できた」と「まあ理解できた」を合わせると、9割以上が理解できたと回答されました。また、講師への疑問・質問につきましては、「デジタル人材が不足する中、どのように対処すればよいか」との質問をいただきまして、講師から「デジタル人材が不足しても、公的支援機関や副業人材を活用することで解決可能である。経営スタイルの見直しがデジタル化の成功に寄与する。明確な指示を行い、外部からの知恵を取り入れ、自社を成長させようという熱意が組織変革の鍵となる。」との回答をいただきました。今後どのようなテーマの講演会に参加したいか伺ったところ、最も多かった回答は「働き方改革につながるデジタル技術の活用」、次いで「仕事と介護の両立支援」、「職場におけるハラスメント対策」と続きました。その他の回答では、「育児休暇時の具体的な手続きや社会保険、給与の締めとの関係、取得日程など実践的な情報」といった、より実務に沿った内容といったものがありました。開催方法について、どの開催形態だと参加しやすいかですが、最も多かった回答は「録画配信による講演会」でした。講演動画を視聴して「イクボス宣言をしてみよう、登録制度に参加してみようと思ったかどうか」については、6割以上が既に登録済みでした。4割の方は「まだわからない」という回答でしたが、視聴者数からも今回の講演会がイクボス宣言企業登録制度の周知・啓発に一定程度寄与できたのではないかと考えています。今回のアンケート結果から、イクボスプロジェクトに対する参加者の理解度と関心が高まっていることが明らかになりました。特にデジタル技術の活用に関する具体的な情報提供が求められており、来年度の講演会では、実践的な内容を充実させることでさらに参加者の満足度を向上させることが期待されます。

続いて、パネル展について報告します。こちらはスライドを用意しましたので、前のスライドを御覧ください。前年度から開始したこのパネル展ですが、今年度から新たな取り組みとして3点取り入れました。1点目はパネル展の開催増、2点目は関係機関との連携、3点目は装飾の工夫です。開催期間及び会場ですが、第1回目は令和7年10月18日（土）で会場はひらしん平塚文化芸術ホール、第2回目は令和8年1月30日（金）から2月12日（木）で会場はららぽーと湘南平塚の1階スタンダードプロダクツ前、第3回目は令和8年2月26日（木）から平塚駅前広場地下道で現在も開催しております。昨年度は大型商業施設で1回のみ開催でしたが、今年度は3回開催しております。さらに1回目は委員の御協力をいただきまして、ひらつか産業FESの講演会の会

場内で開催することができました。関係機関との連携を図りながら、イクボス宣言企業登録制度の周知・啓発ができました。第1回目のひらしん平塚文化芸術ホールのパネル展の様子を御覧ください。講師がさかなクン氏であったため、来場者に少しでも興味を持っていただけるよう、魚のイラストを用いた装飾を行い会場に調和するように意識して展示しました。また、前年度協議会から「ロゴマークを大きく掲示すれば、より興味を引くパネル展になるのではないか」との御意見をいただきましたので、イクボス宣言企業登録制度のロゴマークを全体的に装飾し、より興味を引くよう工夫しました。登録企業全社を紹介するとともに平塚市全域の登録企業が一目で分かるよう所在地マップを作成し、掲示しました。講演会会場の外からも平塚市のイクボスの取り組みが分かるよう二次元コードを掲示しました。

続いて、第2回目のららぽーと湘南平塚でのパネル展の様子を御覧ください。ららぽーと湘南平塚の景観を損なわないよう温かさを感じ、またイクボス宣言登録企業ロゴマークの赤を中心とした暖色系を基調とした展示物を作成しました。ここでも、ロゴマークを大きく掲示し、遠くからでも目立つようにしました。ららぽーと湘南平塚では業種別に登録企業全社を二次元コード付きで紹介しました。業種別にすることにより、各企業の業種が一目で分かるようになりました。

第3回目の平塚駅前広場地下道でのパネル展の様子を御覧ください。駅構内に向かう通路に掲示しております。パネル数が少なく小規模ですが、通勤・通学等で駅を利用する多くの方に御覧いただける機会があると期待しています。こちらでもロゴマークを大きく掲示し、遠くからでも目立つように工夫しました。さらに平塚市全域の登録企業が一目で分かるよう所在地マップを掲示し、市内における登録企業の分布状況を一目で把握できるようにしました。来年度に向けてですが、今後もこのパネル展を継続していきたいと考えております。

最後に今回は委員の御協力をいただいたおかげで新たに産業F E Sでのパネル展の開催ができました。委員の皆様にはこのイクボスプロジェクトオンライン講演会及びパネル展の開催について御案内した際には、事業の周知や啓発に対する御協力、またオンライン講演会の視聴やアンケートへの回答、さらにはパネル展会場への御来場に対して、心より感謝申し上げます。報告は以上です。

(委員) 御感想等がありましたらお願いします。

(委員) 講演会のアンケート結果をみると、各企業等に対して、デジタル技術を活用してみようと思うきっかけ作りができたようでとても有意義な内容であったと思います。一方で、視聴回数474回に対して、回答数が15件というのは少ない印象なので、よりアンケートに回答しやすい工夫が必要だと感じました。

(委員) 講演会の周知はどのようにされたのでしょうか。

(事務局) 広報ひらつか、市のホームページ、そして公式ラインやフェイスブックといったインターネットを活用して周知を行いました。また、神奈川県との共催で開催しており、かながわ男女共同参画センター（かなテラス）も周知を行いました。

(委員) 動画の公開期間中においても再度周知を行うことで、より多くの方に視聴していただければと思います。

(事務局) 今回、市の公式ラインにおいて、動画の公開前と公開期間中の2度にわたり周知を行いました。その効果があったのか、視聴回数が飛躍的に伸びたので次回も引き続き複数回にわたり周知を行いたいと考えております。

(委員) 講演会のアンケート結果について、イクボス宣言の実施や登録制度参加の問いに対して「まだわからない」と回答した方が4割でした。イクボス宣言や登録制度に対して前向きに考えているのか、そもそもイクボス宣言や登録制度の内容や趣旨が分からないのか、この回答を事務局はどのよ

うに捉えているのでしょうか。

(事務局) 「まだわからない」と回答した方の真意は把握していませんが、イクボス宣言や登録制度に対して前向きに考えていると捉えています。これらの企業に対して、引き続き、根柢強く周知・啓発を行うことで宣言や登録につながると考えられます。

(委員) オンライン講演会は、繰り返し視聴することができるメリットがあり、対面と比べて理解度が増すと思われまゝ。また、講演会を視聴して、デジタル技術を活用してみようと思つた企業等が相談できる窓口はあるのでしょうか。

(事務局) 講演会の動画内において、公的機関が実施している無料の相談窓口を案内しました。また、全てのイクボス宣言登録企業にも周知しております。

(委員) パネル展について、開催回数を増やすとともに、展示物が目に入るような工夫が随所に見られ、質、量ともに年々充実してきているように思われまゝ。パネル展の開催において、御協力をいただいている商業施設はイクボス宣言登録企業制度に登録されているのでしょうか。

(事務局) 毎回、多大なる御協力をいただいているのですが、まだ登録はされていないので、引き続き市内企業には周知・啓発を行つていきたいと考えております。

(委員) 産業F E Sにおけるパネル展は、講演会に来られた多くの方の目に入り良かったと思われまゝ。

(委員) 講演会の内容と関連した魚のイラストを用いた装飾により、来場された子どもの興味がそそられる展示になったと思われまゝ。子どもがパネル展に興味を持つことで、その保護者もパネル展を御覧になっておられました。講演会の内容とパネル展の内容は関係がありませんが、イクボスを知ってもらうきっかけにはなつたと思われまゝ。

(委員) 産業F E Sのパネル展は単日開催でしたが、使用された掲示物は再利用等をされるのでしょうか。

(事務局) 現在開催中の駅前広場地下道でのパネル展で一部再利用して掲載しています。

(委員) 駅構内のパネル展について、もう少しインパクトのある掲示物でなければ通行人の方には気付かれず素通りされてしまうと思われまゝ。

(委員) もう少し文字数を減らしてイクボスのロゴマークを大きく掲載するなどデザインを工夫すれば、インパクトがあり通行人の方も気付いてくれると思われまゝ。

(委員) 現在、イクボス宣言登録企業が65社ありますが、定期的にアンケート等は実施しているのでしょうか。

(事務局) 毎年実施しているイクボスプロジェクトにおいて、全登録企業に対してアンケートを実施しています。

(委員) 登録企業にアンケートを実施して、制度に対する課題や要望などを伺えば、登録企業を増やす何かしらのヒントが得られるかと思われまゝ。

(委員) 講演会における講師への疑問・質問に対する回答に、「デジタル化が難しいのではなく、経営スタイルを変えられない、学習できない組織になっている」という旨の内容が記載されています。デジタル化に取り組んでいなくても経営状態に特段問題がない企業は、そもそもデジタル化の必要性を感じていないと思われまゝ。特に企業の上層部の方は年配の方が多く、デジタル化を前向きに考えていない方が多いと思われまゝ。

(委員) 社会全般において急速にデジタル化が進んでおり、デジタル化を推進しなければ時代に乗り遅れてしまう、将来的には企業の経営が成り立たなくなる可能性がある、という危機感を各企業等が持つてもらふことも必要と思われまゝ。

議題2 令和8年度実施予定の市民意識調査（一般向け）について（協議）

【送付封筒（案）】

（委員） それでは、議題2「令和8年度実施予定の市民意識調査（一般向け）について（協議）」のまずは送付封筒（案）について、事務局から説明をお願いします。

（事務局） 資料3の送付封筒（案）をお手元に御用意ください。前回の協議会でいただいた意見である「ワクワクするような資料」をイメージして作成しました。住所や氏名を記載したタックシールの横に、平塚市民約26万人の中から無作為抽出により選出したこと、そして、市民の代表として御意見を聞かせて欲しい旨を記載しました。封筒の中央付近には街並みを背景にした老若男女のイラストに加えて、プラン冊子の表紙に記載しているフレーズになぞらえて、「平塚市は、誰もが自分らしく活躍できるまちを目指しています！ぜひ、あなたのご意見をお聞かせください！」と大きく記載しました。それから、その下には回答時間の目安を朱書きで目立つように記載しました。前回の封筒と比較して、かなりワクワクするような印象の封筒になったと思われませんが、かなりポップなデザインになったことにより、市役所から送付されたものなのか不信感を抱く市民の方もいらっしゃるのではという懸念点があります。封筒を見た際の第一印象も踏まえて御意見をいただければと思います。説明は以上です。

（委員） 御意見等がありましたらお願いします。

（委員） 送付封筒（案）をみた第一印象は、良い意味で市役所らしさがなく、非常に親しみやすさがあり、未開封のまま廃棄される可能性はだいぶ下がったのではと思われます。

（委員） 明朝体、ゴシック体、手書き風の3種類のフォントを上手く使い分けてメリハリを付ければ、親しみやすさを損なわずに市役所から依頼された調査であることも認識してもらえらると思われまます。また、回答期限を封筒に追記した方がより回答数が上がると思われまます。

（委員） 調査票在中の旨をもう少し目立つように記載した方が、送付物の内容や趣旨が分かりやすいと思われまます。

（委員） 前回の協議会で出た意見を上手く反映させた封筒になったと思われまます。また、回答期限の目安について、10分から15分に変更したのは何か意図があるのでしょうか。

（事務局） 初見の方がアンケートを実施した際を想定して15分としました。20分では心理的な負担が大きいと思われるため、色々考慮した結果、目安時間は15分としました。

【依頼文（案）及び送付封筒（案）】

（委員） それでは、議題2「令和8年度実施予定の市民意識調査（一般向け）について（協議）」の依頼文（案）及び送付封筒（案）について、事務局から説明をお願いします。

（事務局） 資料4及び5をお手元に御用意ください。前回の協議会で出た意見等を基に変更した点を主に説明します。まずは、資料4「依頼文（案）」ですが、封筒と同じく、1ページに回答時間の目安と平塚市民約26万人の中から選出した旨を記載しました。

続いて、資料5「調査票（案）」ですが、1ページに回答時間の目安を記載しました。2ページの間3、選択肢の15の用語について、現在、資料4「依頼文（案）」の4ページ「用語の説明」に一部のみ説明を記載していますが、全ての用語の説明を記載する予定です。続いて、3ページの新規設問である問5ですが、選択肢の語尾を「べき」から「方がよい」に変更しました。また、前回の協議会で出た意見を踏まえて選択肢の5「女性の意思を尊重して、自ら選ぶ方がよい」を追加しました。ただし、懸念点があります。問5は、プランの指標である「子どもができてからも、女性が仕事を続けることについて、肯定的な考えを持っている市民の割合」を把握するための設問ですが、選択肢の5は「肯定的な考えを

持っている」と捉えて集計すべきか判断が難しいところです。肯定的、否定的のどちらかのみを選択肢にした方が回答されたサンプルを集計の際に有効活用できるのではないかと考えております。説明は以上です。

(委員) 御意見等がありましたらお願いします。

(委員) 問5の選択肢5「女性の意思を尊重して、自ら選ぶ方がよい」は肯定的か否定的かどちらにも捉えることができるため、指標を把握する設問であることを考慮すると削除してもよいと思われます。

(委員) 選択肢5「女性の意思を尊重して、自ら選ぶ方がよい」は、仕事を続けることを選んだ女性に対して、仕事と家庭を両立させるプレッシャーを与えてしまうようにも解釈できます。そのため、削除してもよいと思われます。

(委員) 資料4「依頼文(案)」について、回答方法等の説明が丁寧に記載されていますが、重複している内容が多く、もう少し簡素化した方が回答率のアップに繋がると考えられます。また、「用語の説明」は調査票の最終ページに記載するなどの検討も必要と考えられます。

(委員) 文字数を減らすなど簡素化するとともに、イラストを活用して視覚的に分かりやすいものが望ましいと考えられます。また、冒頭の「～アンケートへのご協力をお願いします～」は「～アンケートへのご協力をありがとうございます～」と回答していただくことを前提としたフレーズでもよいと考えられます。

(委員) スマートフォンやノートパソコンなど様々な媒体から電子申請システムへアクセスすることを想定して、2次元コードと市のホームページの2通りのアクセス方法を記載しているという認識でよろしいでしょうか。

(事務局) その通りです。スマートフォンで2次元コードを読み取る方法は、一番早くアクセスできると思われていますが、画面が小さくて見づらいというデメリットがあります。一方、ノートパソコンで、市のホームページからアクセスした場合は、画面が大きくて見やすいというメリットがあります。

(委員) 前回調査の紙回答、電子回答の割合はそれぞれの程度だったのでしょうか。

(事務局) 回答者の年代に関わらず、紙回答が約7割で、電子回答は約3割にとどまりました。やはり、紙で回答の方が見やすいと思われていますが、郵便ポストへ投函するという手間があり、どちらにもメリットとデメリットがあります。

(委員) 紙の調査票が同封されているので、大多数の方が紙で回答するのも自然と思われていますが、いずれは全て電子で回答していただくことを想定しているのでしょうか。

(事務局) もっとデジタル化が進めば、いずれは電子回答のみということも考えられます。

(委員) 紙回答の方法について、黒色の筆記用具で、選択肢を○で囲うかチェックをつけるという認識でよろしいでしょうか。

(事務局) その通りです。回答方法について依頼文にその様に記載していますが、回答の意図が読み取れればどの様に回答しても有効回答としています。

4 事務連絡

5 閉会

(事務局) それでは、以上をもちまして、第3回ひらつか男女共同参画推進協議会を閉会いたします。長時間どうもありがとうございました。

以上